

日本産ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* の研究 Part 1. 利尻島からの2種類について

森田誠司

〒 141-0022 東京都品川区東五反田 5-19-7

Notes on the Platynine Genus *Synuchus* (Coleoptera, Carabidae) of Japan

Part 1. Two Species from Rishiri Island, Hokkaido, Northern Japan

Seiji MORITA

Higashi-gotanda 5-19-7, Shinagawa-ku, Tokyo, 141-0022 Japan

Abstract. Two synuchine carabid beetles from Rishiri Island, northern Japan are dealt with and *Synuchus crocatus* is recorded from the island for the first time.

はじめに

筆者は、ほとんどの亜科にわたる 100 種以上の日本産のゴミムシ類 (甲虫類, オサムシ科) の新種の記載ないし、珍しい種の再記載などを、今まで行ってきた。その中で一番分類が難しいとの印象を持っているのが、このツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* と呼ばれる仲間である。どの種も黒色ないし赤褐色で、体長 6mm から 15mm 程度の中型の種類からなり、一部の種類を除いて、多くはそれぞれが互によく似ているため、分類は非常に難しい。全国的に分布し、主に林床に棲む。多くの種類は、後翅が縮小ないし退化している。また、後翅が発達している種であっても、飛翔が観察されたという報告はみあたらない。例えば田中 (1962) による蛍光灯に飛来したゴミムシ類の研究では、2 種の例が報告されているが、飛翔により光源に到達したものではなさそうである。一方、Lindroth (1956) は、*Synuchus nitidus* の解説の中で、Hindwings fully developed and functional と述べている。

採集方法は、サナギ粉や酒類等を用いたトラップ採集で、個体数も多く、採集自体は簡単で研究用の標本の入手はたやすい。また、小型ネズミ類採集の

トラップにもよく落下するため、哺乳類の研究者から材料を提供されることもしばしばある。成虫は、真夏から秋にかけての他の地表性の甲虫類の少ない時期に出現する。

本属は、これまで利尻島から 3 種が知られている



図 1. *Synuchus (Synuchus) melantho* (Bates) 利尻島産。

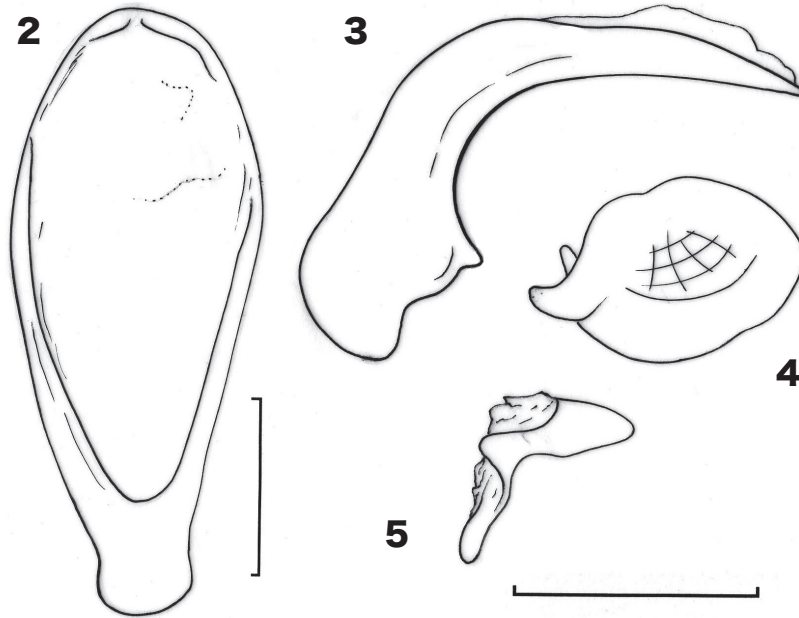


図2-5. *Synuchus (Synuchus) melantho* (Bates) 利尻島産の雄. 2, Genital segment; 3, 陰茎; 4, 左側片; 5, 右側片. (スケール: 1.00 mm).

(森田, 1995). 最近, 手元にあった紙包みの標本を軟化整理してよく観察してみたところ, 報告しておいた方がよい幾つかの項目を見出したので, ここに報告しておきたい.

1. *Synuchus (Synuchus) melantho* (Bates)

コクロツヤヒラタゴミムシ

Crepidactyla melantho Bates, 1883, p. 254, type locality: Sapporo.

[検視標本] 4 ♂♂, 5 ♀♀. 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇, 2012年8月25日, 若宮公雄採集.

我が国に産するゴミムシの中では, 普通種のひとつであるが, 分類学的にまだ問題を抱えている. Habu (1978) は, その大著 *Fauna Japonica* の中で, 自ら 1955 年に記載したナガクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus silvester* を, シノニムとみなした. しかし, 田中 (1985) は, 原色日本甲虫図鑑の中で, 両者を独立種と認め図示している. たしか

に, 両者は互いによく似ているが, 前胸背板と上翅の幅の比率において異なる. また, 雄の交尾器にもわずかではあるが, 差異が認められる (未発表). コクロツヤヒラタゴミムシは, 後翅が退化するのに対して, ナガクロツヤヒラタゴミムシは, 後翅が発達した個体群も認められる. 更に, 同定を迷う個体もみられ, 今後全国的なレベルでの材料をもって研究を進めるべきものと考えている.

今回検した利尻島産の個体群に関して, 前胸背板が幅狭な個体で, 明らかに *S. melantho* と同定できるものであった. 参考まで, 合計 9 頭の前胸背板の最大の幅 (PW) と上翅のそれ (EW) との比率を以下に示しておくと共に, 雄の交尾器を図示しておく. PW/EW 0.63-0.69 (M0.66) (4 ♂♂); 0.58-0.61 (M0.60) (5 ♀♀).

2. *Synuchus (Synuchus) crocatus* (Bates)

シラハタクロツヤヒラタゴミムシ

Pristodactyla crocata Bates, 1883, p. 288, type locality: Hakodate & Yokohama.

[検視標本]3 ♀♀. 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇,
2012年8月25日, 若宮公雄採集.

前種と共に同じ紙包みにあったもので, 更に他の地域からの採集経験から推測し, 本種は, 島内で前種と同所的に生息するものと考えられる. 非常に特徴的な種で, 陰茎が軽度に湾曲する. 今回検したのは全て♀であるが, 前胸背板の形, 基部凹陷の深さ, および上翅の表面の微細印刻などの外部形態で本種と同定した. なお, 利尻島からは初記録となる.

本種は, Lindroth (1956) により整理され, 雄交尾器も図示された. Habu (1978) によると千島, 北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 南限は, 大分県祖母山である. ただし, この種においても問題点が皆無とは言えない. 韓国から記載された *S. coreanus* Kirschenhofer (1990) という種の存在である. 外部形態のみならず雄の交尾器も互によく似ている. 単なる *S. crocatus* の変異の端に位置する疑いもあり, 今後, 生物地理上, 九州北部から, 特に対馬から同系統の種が発見されれば, 更に研究が進展するものと思われる.



図6. *Synuchus (Synuchus) crocatus* (Bates) 利尻島産.

謝辞

末筆ながら, 標本の撮影を行ってくださった利尻町町立博物館の佐藤雅彦学芸員に, 厚く御礼申し上げます.

参考文献

- Bates, H. W., 1883. Supplement to the geodephagous Coleoptera of Japan, chiefly from the collection of Mr. George Lewis, made during his second visit, from February, 1880, to September, 1881. *Trans. ent. Soc. London*, 1883: 205-290, pl. 13.
- Habu, A., 1955. Notes and descriptions of the *Calathus* species (Coleoptera, Carabidae) from Japan. *Bull. natn. Inst. agric. Sci., Tokyo*, (C), (5): 157-224.
- Habu, A., 1978. Carabidae: Platynini (Insecta: Coleoptera). *Fauna Japonica*. viii + 447 pp., 36 pls. Keigaku Publ., Tokyo.
- Kirschenhofer, E., 1990. Neue Platynini aus China und Korea (Coleoptera, Carabidae). *Z. Arbgem. öst. Ent.*, 42(1/2): 15-21.
- Lindroth, C. H., 1956. A revision of the genus *Synuchus* Gyllenhal (Coleoptera: Carabidae) in the widest sense, with notes of *Pristosia* Motschulsky (*Eucalathus* Bates) and *Calathus Bonelli*. *Trans. r. ent. Soc. London*, 108: 485-585.
- 森田誠司, 1995. 利尻島のゴミムシ類. 利尻研究, (15): 1-7.
- 田中和夫, 1962. 蛍光灯に飛来した歩行虫類. 自然科学と博物館, 29(7/8): 109-121.
- 田中和夫, 1985. オサムシ科 (ナガゴミムシ亜科, マルガタゴミムシ亜科). 上野, 黒沢, 佐藤 (編著), 原色日本甲虫図鑑, 2: 105-138, [図版, 20-25]. 保育社, 大阪.